

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつとり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ  
令和元年6月17日 現在

作物名	生育状況等	今後の見通しと対策
作物	<p>水稲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一般的に生育は順調で、目立った病害虫の発生はない。雑草の発生が多いほ場が散見される。</li> <li>・茎数は昨年並～やや多く、草丈は昨年並～やや短め、葉色は5月上旬植えでは淡く推移。</li> <li>・平坦部山間部とも茎数増加は順調で、一部で還元症状が見られるものの発生は軽微であり、昨年見られたような株消失の被害は見られていない。</li> <li>・降水量が少ないことで、田植えが昨年より若干遅れた地域がある。水部不足を懸念するあまり、深水管理も一部で見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茎数増加を促すため、昼間の止水浅水管理を徹底する。</li> <li>・目標茎数確保後は、品種特性に応じた中干しを行う。</li> <li>・雑草繁茂ほ場では、中後期除草剤などにより、雑草防除に努める。</li> </ul>
	<p>麦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二条大麦の収穫は終了し、収量は昨年より多い状況であるが、細麦傾向の様子である。</li> <li>・小麦は、幼穂形成期以降の冷害による不稔粒が発生し、収量が少ないほ場が多かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦については、次年度に向けて適正品種の探索、播種時期や収穫適期、低アミノ対応調節剤の検討が課題となる。</li> </ul>
果樹	<p>ナシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6月13日作況調査の結果、横径34.9mmで前年比92%、昨年比99%で、昨年並みの肥大となっている。</li> <li>・順調な生育となっており、病害虫の発生も少ない傾向である。</li> <li>・大袋掛け作業も、順調に進んでいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適度な降雨もあり、順調な果実肥大が見込まれる。</li> <li>・降雨が続くようになれば、排水対策を徹底する。</li> </ul>
	<p>カキ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・カキの開花盛は、「富有」が5月24日、「輝太郎」が同23日、「西条」が同25日で、昨年より1～2日早い開花となった。</li> <li>・着蕾も良好であり、開花期が好天に恵まれたことにより、各品種ともに着果数は確保できる見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・降雨が続くようになれば、排水対策を徹底する。</li> </ul>
	<p>ブドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・無加温ハウスの「デラウェア」は着色期に入っている。巨峰・ピオーネは前年に比べ2日程度遅く、昨年並みの生育となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高湿度で病害が助長される時期であり、ハウスの換気と適期防除に努める。</li> </ul>
野菜	<p>白ねぎ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【春ねぎ】 育苗～定植中。育苗は順調で、定植したものは一部で乾燥による生育停滞があったが、適度な降雨があり順調に生育。</li> <li>【夏ねぎ】 ・トンネル作型は出荷終盤となった。2L率5割程度で良好。無トンネル作型も2L率は6割程度で生育順調。 ・抽台の頻度は少ないが、東部地域では年内定植夏ねぎで抽台が多いほ場がある。</li> <li>・中山間部を中心に3月以降の定植分は乾燥により生育が停滞気味であったが、6月上旬の降雨以降は順調に肥大、伸長している。</li> <li>【秋冬ねぎ】 ・定植後の乾燥により生育が停滞していたが、6月の降雨以降、順調に生育している。</li> <li>【病害虫】 ・弓浜地区ではべと病の発生が目立っており、一部、多発ほ場もある。</li> <li>・全体的にネギアザミウマの発生が多く、一部では食害による生育停滞がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・べと病、ネギアザミウマの多発ほ場では、卓効剤を優先的に使用して防除を徹底し、密度を低減させる。</li> <li>・発生が見られない地域においても、今後、べと病、ネギアザミウマの増加が予想されるため、防除を徹底する。</li> <li>・梅雨末期の豪雨に備え、排水対策を徹底する。</li> </ul>
	<p>ブロッコリー</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【初夏どり】 ・6月に入ってからのもたまった降雨で生育が進み、収穫は9割程度終了。</li> <li>・乾燥の影響と見られる花蕾の不揃い、高温の影響による小花黄化が散見され品質が低下している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は6/25頃まで続く見込み。</li> </ul>
	<p>すいか</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【ハウス栽培】 ・倉吉地区、大栄地区とも3L中心4L寄りで大玉傾向。</li> <li>・全農販売データでは、6/14現在で3.30tで昨年比107%だが、交配不良の影響があり出荷玉数は昨年よりやや少ない。</li> <li>【トンネル栽培】 6/19頃から本格出荷となる見込み。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・梅雨期に入り、病害が発生しやすいため、つる枯病、炭疽病などの防除を徹底する。</li> <li>・天候の状況に応じて、草勢維持のためかん水を行う。</li> <li>・高温期のトンネル栽培は出荷前はトンネル被覆のクレフノン塗布などにより直射日光を抑え、草勢の維持と果実品質の低下防止を図る。</li> </ul>
	<p>らっきょう</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・収穫は8割程度終了。</li> <li>・県全体の累計出荷量は昨年同期(6/14)で111%。洗いのL規格が50%程度で大玉出荷となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選果場最終荷受けは、 福部地区：根付き6/13、洗い6/21 北栄地区：共乾6/11、根付き6/14、洗い6/16。</li> </ul>
	<p>ながいも</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出芽状況は良好であったが、夜温が低かったことから地上部の生育は約1週間程度遅れている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・炭疽病、ナガイモコガ、ハダニ類などの早期発見に努め、防除を徹底する。</li> </ul>
	<p>アスパラガス</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・立茎は6月上旬頃にほぼ終了したが、5/20の強風による傷、茎折れなどで再立茎しているほ場もある。</li> <li>・5月の乾燥の影響で累計出荷量はやや低めとなっている(昨年比78%)。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・茎枯病の発生後の防除は困難なため、予防散布を徹底する。</li> <li>・立茎が完成し、スリップスの増加が予想されるため、初期防除を徹底する。</li> </ul>
<p>にんじん</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・6/11 から収穫が始まっている。M～L規格中心で病害もなく順調。</li> <li>・一部、生育の良いほ場で、抽苔が例年以上に発生している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月末で収穫終了の見込み。</li> </ul>	
花き	<p>リンドウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】 ・5月～6月上旬の高温、強日射の影響により、葉先枯れ、萎れが目立っている。</li> <li>・5月20日の強風による茎折れも見られる。</li> <li>・6月上旬時点で草丈は70～120cm程度と例年並みとなっている。</li> <li>・開花は全般的に遅れており、出荷始めは昨年の6月16日より遅く、6月21日頃となる。</li> <li>【中部地区】 ・定植2年目。大きいもので草丈70～90cm、発蕾し始め。わき芽が発生している系統もある。</li> <li>・低標高の農家では極早生系統が開花している。補植したものは枯れており、再度補植の必要あり。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スリップス、褐斑病の被害が予想されることから病害虫の防除が必要。</li> <li>・降雨が少なく、乾燥が続いているため、適宜かん水が必要である。</li> </ul>
	<p>シンテツポウユリ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【露地栽培】 【東部地区】 ・智頭町では4月中旬から5月上旬に定植。例年並み。生育の早い農家では全て抽台し、草丈20～30cmになっている。</li> <li>・八頭町では4月下旬から5月上旬に定植。</li> <li>・定植後の生育は、高温、少雨の影響で、昨年より遅く、抽苔も遅れている。</li> <li>・鳥取市では6月上旬から抽台が始まった。昨年より少し遅め。</li> <li>・アブラムシ、ユリクビナガハムシの発生が目立つようになった。</li> <li>・葉枯れ病の発生はいまのところ問題無し。</li> <li>・彼岸出しの定植が6月中旬に行われた。活着は良好。</li> <li>【中部地区】 ・チェーンポット栽培。すでに抽台しており、草丈20～30cm。病害中の発生は見られない。</li> <li>・地床育苗の農家も順調に生育しているが、一部、乾燥と思われる葉焼けや生育不良がみられる。</li> <li>【ハウス抑制栽培】 ・倉吉地区：育苗中で、本葉2枚～2.5枚。ネットを敷いていないため、根が絡み始めている。現在冷蔵処理中。</li> <li>・大栄地区：彼岸出しは2戸で6月10～12日に定植終了。(1戸10日間苗冷蔵、1戸苗冷蔵なし)。秋冬出し7戸がチェーンポット育苗中。葉数2枚程度で、順調。6月14日から順次、苗冷蔵処理開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アブラムシ、ユリクビナガハムシの防除を徹底する。また、葉枯病の発生が予想されることから定期的な防除が必要。</li> <li>・感想が続いており、適宜灌水が必要である。</li> </ul>
	<p>トルコギキョウ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【東部地区】 ・盆前出荷用に八頭町の3戸が3月中旬に播種。4月下旬～5月中旬定植。5月下旬の高温、強日射対策で、3戸ともハウスにシルバー寒冷紗を被覆した。</li> <li>【西部地区】 ・出荷中のトルコギキョウに斑点病と思われる病斑が発生している。</li> <li>・日南町の花壇苗農家で抑制作型用の苗を育苗中(中部地区用)。7月上旬には定植予定。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天候にあわせ、シルバー寒冷紗の除去と梅雨明け後の再設置等の作業が必要となっている。</li> <li>・斑点病と思われる病害の同定と対策を実施する必要がある。</li> </ul>
	<p>アスター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中部の花壇苗農家で、同地区の抑制作型用のアスターを育苗中。</li> <li>・露地栽培の盆用アスターは草丈20cm前後で、順調に生育中。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫防除を徹底する。</li> </ul>
	<p>キク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>【中部地区】 ・盆出荷用を中心に、彼岸出荷のものが生育中。盆用は草丈50cm程度、彼岸用は草丈10cm程度。</li> <li>・現在、芽の整理と下葉かきの作業中。</li> <li>・目立った病害虫の発生はなく、生育順調。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早いものは6月下旬頃から収穫開始の予定。</li> </ul>
	<p>飼料用トウモロコシ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種は、地域により4月中旬～5月上旬に開始され、予定面積の9割以上で終了している。</li> <li>・一部地域では、トウモロコシ裏にイタリアンライグラスを栽培しており、イタリアンライグラス収穫後、播種に取りかかる。</li> <li>・病害虫の被害はほとんど見られず、生育は順調に推移している。</li> <li>・今のところアワヨトウの発生は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・6月中には播種が全て終了する予定。</li> </ul>
<p>イタリアンライグラス等</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一番草の収穫は終了し二番草の収穫準備に取りかかっている。</li> <li>・一部地域では6月に入って二番草の収穫に取りかかっている。</li> <li>・今のところアワヨトウ等の虫害は見られない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イタリアンライグラス収穫後は夏作牧草の準備に取りかかる。</li> </ul>	
その他	<p>農作業安全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>6月13日広島気象台発表の中国地方の1ヶ月予報では、寒気の影響を受けて1週目と2週目の気温は低く、向こう1か月を平均した気温も低いと予想されている。しかし例年、この時期から8月にかけては気温が上昇する時期であり、気温が急上昇することもある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【予防方法】 ・できるだけ気温の高い時間帯を避けて作業する。</li> <li>・休憩をこまめにとり、作業時間を短くする。特に気温が高くなりやすいハウス内での作業は注意する。</li> <li>・作業するハウスは、できるだけ換気に努める。</li> <li>・日射を防ぐ服装をする。通気性の良い素材の長袖シャツと長ズボンを着用し、つばの広い帽子などを被る。</li> <li>・農作業の際には水、氷(保冷剤)、濡れタオル等を持参し、汗で失われた水分を十分に補給するため水分をこまめに摂取する。また、汗を大量にかいた際には塩分の補給もあわせて行う。</li> </ul>